

北海道アイヌ協会創立当時の請願書等について

Petition from the time of the establishment of the Ainu Association of Hokkaido

マーク・ウィンチェスター (Mark WINCHESTER, Dr.)

国立アイヌ民族博物館 アソシエイトフェロー (Associate Fellow, National Ainu Museum)

田村将人 (TAMURA Masato)

国立アイヌ民族博物館 資料情報室長 (Manager of Collection Management Division,
National Ainu Museum)

キーワード：北海道アイヌ協会、GHQ、向井山雄、小川佐助、農地改革

Key Words：Ainu Association of Hokkaido, SCAP, Mukai Yamao, Ogawa Sasuke, Land reform

1946年2月24日、北海道アイヌ協会（理事長向井山雄）が創立され、翌3月には社団法人として知事の認可を得、法人登記された。同団体は、1961年、北海道ウタリ協会に改称し、2009年、ふたたび北海道アイヌ協会と名称を変更し現在に至っている。この名称の変遷は、「アイヌ」という言葉が被差別体験に結び付き、当事者が名乗りにくい時代が長かったことを物語っている。2009年の改称までの間にも、毎年のように議論が繰り返されていた。

さて、敗戦直後の混乱の中、北海道内各地のアイヌ民族の有志が連携し組織化を急いだのには、当時はGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の占領下においてアイヌ民族としての意思表示が必要だったということがある。とりわけ、北海道旧土人保護法による給与地が農地改革の適用を受けて没収されないよう陳情活動を行うことは、大きな目的だったと言えるが、結果として給与地も農地改革の対象となった。このような中、『アイヌ新聞』を発行した高橋真（1920-1976）が、GHQの幹部数人に接触し、さらに連合国軍最高司令官マッカーサー元帥宛てに手紙を送っていることから、当時のアイヌ民族にとって現状打破の活動だったと言える（伴野 2012）。

文化庁に設置された国立アイヌ民族博物館設立準備室（以下「準備室」とする）は博物館（2020年7月12日開館）の開館準備を進める過程で、言語学者であり民族学者でもあった知里真志保（1909-1961）に関連する資料を入手した。その中に、1946年の日付の入った資料が含まれていたため、まずは概略を紹介

し、いくつかについて翻刻して資料紹介を行う。

解題

1) GHQスウィング少将宛て向井山雄理事長1946年5月10日付書簡

これは、すでに各省庁に送っている嘆願書を送付するのでアイヌ民族の現状を理解し解決に尽力されたい旨が請願されている。なお、当時の北海道アイヌ協会幹部が、スウィング少将より日本からの「独立」の意思の有無を尋ねられたとするエピソードがある（社団法人北海道ウタリ協会アイヌ史編集委員会 1990：925-931）が、本稿で紹介する資料がその契機となった可能性があることも考えておきたい。

2) 「アイヌ民族甦生援護ニ関スル嘆願書」

原稿用紙にペン書き（一部、黒鉛筆）で書かれ、そこに黒や赤の鉛筆で推敲された形跡が読める。北海道立図書館および北海道大学付属図書館に所蔵されている「アイヌ民族甦生援護ニ関スル嘆願書」（タイプ打ち）は本資料と同じ内容である。したがって、本資料が原文で、両図書館所蔵の資料はそれを清書したものであるといえるだろう。また、1947年に各省庁およびGHQ宛てに送付された文書の基になったことが推察される（社団法人北海道ウタリ協会アイヌ史編集委員会 1990：859-900）。

文書の差出人は「北海道庁厚生課内 社団法人北海道アイヌ協会 理事長 向井山雄」の名前で締めくくられており、文中に「御庁」とあるも具体的な宛名は

表1 関係する資料5点の概要

1	スウィング少将 (GHQ) 宛て向井山雄 (北海道アイヌ協会理事長) 1946 年 5 月 10 日付け書簡	英文タイプ、1 枚、カーボン複写。
2	表題「アイヌ民族甦生援護ニ関スル嘆願」。 文末に「昭和二十一年 月 日〔空白〕／北海道庁厚生課内 社団法人北海道アイヌ協会 理事長 向井山雄／〔空白〕殿」。	手稿、ペン書き (黒、青インク、一部、黒鉛筆)、赤鉛筆で校正。「昭和 年 月 日」入り 11 行青色罫紙、15 枚。
3	表題「Petition for Promotion & Relief of Ainu race / Hokkaido Ainu Association (Foundational Juridical person)」。 文末に、1946 年、月日空白、「President of the directors Y. Mukai Hokkaido Ainu Association」、ただし署名無し。	英文タイプ、6 枚、カーボン複写。
4	表題「社団法人 北海道アイヌ協会定款」〔全 33 か条〕	謄写版、6 ページ。
5	表題「The Articles of the Ainu Association (Corporate Judicial person)」〔北海道アイヌ協会定款 全 33 か条の英文〕	英文タイプ、3 枚、カーボン複写。

書かれず、当時の国内の各省庁へ共通した文面で作成されたことを想像させる草稿である。内容は、主に明治に施行された北海道地券発行条例 (1877 年) で官有地に編入された土地の解釈、さらに北海道旧土人保護法 (1899 年) では農業用の土地が未開地に限るとされたため、それまでアイヌ民族が「占有」してきた耕作地が該当しなかった問題点が指摘されている。さらに、給与地の下付面積が専業農家となるには不足であること、とくに浦河や新冠の農場創設で強制移住を余儀なくされたアイヌ民族の権利回復などを例に挙げている。

使用されたものと同じ罫紙が、山本多助 (釧路支部長) 宛ての小川佐助 (北海道アイヌ協会常務理事) による 1946 年 5 月 16 日付け書簡 (竹内 2006 : 397-398) でも使用されており、筆跡が酷似していることから、小川によって書かれたものと推測できる。3) 「Petition for Promotion & Relief of Ainu race」はその要約英文と考えられる。

この後、5 月 31 日には小川佐助、文字常太郎らが上京して内務省に対して新冠御料牧場解放とアイヌの入地を陳情。6 月には北海道アイヌ協会幹部が、7 月 9 日には高橋真が、7 月 23 日には文字常太郎がそれぞれスウィング少将に面会している。このような動

きは翌年にかけて頻繁に行われており、当時の衆議院議員選挙、北海道庁長官選挙、北海道議会議員選挙にアイヌ民族の立候補者 (いずれも落選) があったことから (竹内 2006 : 500-502)、戦後の新生日本への期待と積極的な行動とみることができる。

翻刻にあたり、旧字は新字に変更し、訂正された箇所には抹消線を付加した。判読不可の文字は□で示した。編者による誤読の可能性もある。現在では不適切な表現もあるが、歴史的資料を把握するためであり、差別等を助長する意図がないことを理解いただきたい。

3) Petition for Promotion & Relief of Ainu race / Hokkaido Ainu Association (Foundational Juridical person)

本資料は 2) 「アイヌ民族甦生援護ニ関スル嘆願」の要約英文であるが、各箇所が日本語の原文とは異なる箇所があり、英語を母語とする GHQ スウィング少将の理解を得るためにいくつかの工夫がなされていることがわかる。ところどころ英単語のつづりの誤りも見られるが、おそらく辞書等を使用せずに一気に打ち込んだ形跡があることから、きわめて流暢な英語を使いこなしていた人物によるものだと言える。翻刻するにあたり、誤字脱字等はすべて原文のママとした。

「北海道ノ先住民族デアリ」の訳語として「the pre-occupying race of Hokkaido」の使用がまず目を引く。国際法上の概念としての indigenous peoples や、その訳語としての「先住民族」が定着する前の時代だが、アイヌ民族に関しては「先住民族」という言葉がはやくも使われている。ただし、このことばの初期の著名な例としては遼星北斗の「アイヌの姿」(1927年)での使用が挙げられる(遼星 1984:115)。

第4行には、原文の「水草ヲ逐フテ原始的生活ニ沈淪スルノ余儀ナキニ至ツタ」に「majority of Ainu had to become like those bedouins」(大多数のアイヌはベドウィンと同じようにならざるをえず)という例えが付け加えられている。いわゆる「遊牧」生活で著名なアラブの民族をここで比較の対象として挙げていることに、英語圏の人を相手に、アイヌの歴史と現状をわかりやすく伝える努力が読み取れる。「和人ノ搾取奸詐」が「the cunning Japanese」(「狡猾な日本人」とも訳せる)になっていることも興味深い。

以下、原文と訳文にいくつもの相違が見られ、これらの詳細な分析や訳語の選択の分析等から、訳者の特定が可能と思われる。また、当時の北海道アイヌ協会の活動方針を伝える上で訳者がもっとも重視したものや、訳者の原文に対する自身の考え方の投影を読み取ることができる。

さて、これらの資料を知里真志保(およびその周囲)が持っていたことをどう解釈するか。1946年当時、知里真志保は北海道アイヌ協会の参与、兄・高央は理事であった。さらに、知里高央、真志保兄弟とも英語を得意としており、ここに紹介した資料の英訳(英文作成)を行った可能性はある。少なくとも、この文書が作成されたころは、知里真志保はアイヌ協会の活動に積極的に関わった時期であった(竹内・小坂 2007)。また、これらの資料の他に、準備室は高橋真の『アイヌ新聞』の第3、5、8号も同時に入手しており、その第5号には「知里高央先生」との鉛筆書きの献呈辞が見られる。また竹内は、北海道アイヌ協会の設立総会より常務理事を務めた小川佐助や縁戚者の証言と、1946年のアイヌ協会昭和21年度収支決算書の人事費欄に定款の「起草等への謝礼として支払われたと理解できる『知里高央百円』の記載があることから」(竹内 2020:26)、定款起草者を知里高央としている。このことから、これらの資料と知里高央、真志保兄弟の関わりを想定しておくに留めておこう。

いずれにせよ、これらは日本の敗戦と、アイヌ民族の権利回復への期待が入り交じった1946年当時のアイヌ史を探っていく上で重要な資料といえよう。今後、詳しい分析の成果報告も含めて、資料の活用を図っていききたい。

なお、国立アイヌ民族博物館では、常設の基本展示室にて定期的な展示替えを行っているが、当該資料もその一環として展示している時期がある。資料保存の観点から、とくに手稿や衣服等は2か月を目途に展示替えを行っていることをご理解いただきたい。また、北海道内のテレビ局(NHK、HBC)がこの資料を取り上げた番組があったことを付け加える。

本稿は、田村(2021)にて資料の存在に関する一報を『北海道・東北史研究』の紙上にて紹介したものに加えて、具体的な資料紹介を行うものであることを付け加える。

参考文献

- 遼星北斗 1984『コタン 遼星北斗遺稿』草風館
小川正人 2003「北海道アイヌ協会浦河支部創立当時のこと：富葉愛吉」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要』第9号
竹内渉 2020『戦後アイヌ民族活動史』解放出版社
竹内渉編 2006「北海道アイヌ(ウタリ)協会史研究1報告書」結城庄司研究会(財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構『アイヌ関連総合研究等助成事業報告』第6号、2007年、所収)
竹内渉、小坂博宣 2007「北海道アイヌ(ウタリ)協会史研究2ノート」結城庄司研究会(財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構『アイヌ関連総合研究等助成事業報告』第7号、2008年、所収)
田村将人 2020「ウボボーのお宝 7 GHQへの書簡」朝日新聞朝刊、2020年8月21日付け
田村将人 2021「GHQ幹部宛て北海道アイヌ協会関係資料について」『北海道・東北史研究』pp.1-3。
伴野昭人 2012「マッカーサーへの100通の手紙 占領下北海道民の思い」現代書館
社団法人北海道ウタリ協会アイヌ史編集委員会 1990『アイヌ史資料編3 近現代史料(1)』北海道出版企画センター
マーク・ウィンチェスター
2021「ここに注目! 私たちの歴史」『国立アイヌ民族博物館ニュースレター アヌアヌ』第3号、p.7。

資料紹介1) GHQスウィング少将宛て向井山雄理事
長1946年5月10日付書簡

May 10 1946
Hokkaido Ainu Association
The Promotion Sec. the H. P. O.
Sapporo

Your excellency Gen. Swing

May we very humbly beg you to be interested in this our Ainu letter of petition to you.

We have already sent over copies of our petition for protection & Relief of Ainu as the attached paper states to the authorities concerned such as Home Ministry, Dept. of Imperial Household, Welfare Ministry, Agriculture & Forestry Ministry and the Government of Hokkaido.

We have stated the present situation & the brief history of Ainu race in the petition & we beg you kindly to work out proper counter-measures.

Will you please be interested in our petition & be very kind to us.

Yours truly

Yamao Mukai
Director of Hokkaido Ainu Ass.,
Promotion Sec., H. P. O.

資料紹介2) 「アイヌ民族甦生援護ニ関スル嘆願」

【1枚目】

アイヌ民族甦生援護ニ関スル嘆願

北海道ノ先住民族デアリ、十一州ガ未ダ皇化ニ浴セザリシ、古昔カラ、自力自営デ開拓ノ使徒ニ任ジ、皇国ノ進運ニ寄与セル我等アイヌ民族ノ父祖ガ、嘗テ、松前封建三百年ノ非同化的藩政ニ禍サレ、祖先以来占有シ續ケテ居ッタ、良好ナル農地ヤ漁場ヲ没収セラレ、飽クナキ被圧ヲ蒙リ、為メニ幕末頃マデハ水草ヲ逐フテ原始的生活ニ沈淪スルノ余儀ナキニ至ッタ次第デアリマス。

明治初年以降、本土方面ヨリ移住スル和人ガ急激ニ増加スルニ及ビ、之等ト対等ノ文化ト智育ナキ我等同族ノ父祖ハ、常ニ和人ノ搾取奸詐ニ陥リ、遂ニ今日猶ホ

悲惨極ル生活状態ニアルモノ其大部分ヲ占メルハ誠ニ悲シムベキ、現象デアリマス。

【2枚目】

斯ル社会ノ欠陥ハ国家ノ御理解アル御同情ニヨリ其対策ヲ仰グベキデスガト共ニ、我々モ又、自ラノ進ムベキ道ヲ打開セザルベカラズトシ、全道アイヌ民族ノ総力ヲ結集シ、自ラノ向上発展、福利厚生ヲ図ルベク、過般社団法人北海道アイヌ協会ヲ設立スルニ至ッタ次第デアリマス。

本協会ノ終局存立ノ目的ハ、アイヌ民族ヲシテ、農業、或ヒハ漁業等職域的部門ニ於テ、其生活水準ガ和人ト稍々併行スルマデ向上セシムルニアリマス。

今ヤ国家ハ「ポツダム宣言」ヲ受諾セラレ、民主主義国是ヲ確立セラレタノデアリマス。此ノ秋ニ際シ、松前藩政以来、約四百年間、安居樂業ヲ奪ハレ、被圧、暴政ニ沈淪シ来ッタ我等アイヌ民族ヲシテ、其生活上、真ニ皇国民タルノ体面ヲ保全シ得ラルル様、御庁ノ御理解アル御同情ト

【3枚目】

御援護ヲ賜リ度ク、左記現況ト沿革其他ノ一端ヲ具シ、此段御願ニ及ビタル次第デアリマス。

記

一、北海道ニ現住スル我々アイヌ民族ハ、戸数約三千五百戸、人口約一万七千デアリマス。

此内、高等教育ヲ受ケタルモノ僅カ数名、中等教育ヲ受ケタルモノ数十名程度デ、其他ハ国民学校修了程度カ若シクハ無学文盲ナモノデアリマス。

住宅ニ於テハ三千五百戸ノ内、草小屋ト称シ、茅葺キ狭溢ナ家屋ニ居住スルモノ二千六百十五戸、其内床ナキモノ単ニ地面ノ上ニ藁類ヲ敷キソレニ蓆ヲ覆フテ起居シ臥寝シ居ルモノハ五百五十八戸デアリマス。

経済的ニ於テハ、数十万ノ富ヲナスモノ数名、農業或ヒ

【4枚目】

ハ漁業等職域的部門ニ於テ其生活水準ガ和人ト稍々併行スルモノ約二割程度デ、其他ノ大部分ハ至ッテ生活程度ガ低ク、殊ニ一般和人ト比較シテハ其水準ニ甚ダシキ差ガアリ経庭〔径庭〕アリ、如何ニ悲惨ナ生活ニ放棄セラレアルカハ、前記家屋ノ数字ヨリ見マシテモ、実状ハ推知シ得ラルルノデアリマス。

二、嘗テ我等ノ父祖ノ多数ハ、松前三百年ノ非同化藩

政ニ禍サレ、文化ノ恩恵ニ浴スルコトナク、文化的智育ニ劣ルトハ云へ、生活豊カニシテ、和人ニ比シ毫モ遜色ガナカッタ時代ガアッタノデアリマス。然ルニ文化的、教養ニ恵レテヲル、和人ト何等対策ナク同一条件ノ経済機構ノ下デ統治セラル、ニ及ンデ、我々ノ先祖代々カラ占有シ、開墾シ耕作シ来ッタ生活保全ニノ為ノ唯一ノ財産デアッタ土地モ、

【5枚目】

文字ヲ解セズ、国法ヲ弁ヘズ、所有権擁護ノ法律的ナ手續キヲ知ラザリシ結果、奸智ニ夫長ケタ和人ノ併呑ニ任セザラル、ニ至ッタ次第デアリマス。

斯クシテ我等ノ父祖ガ成墾シ占有シ来ッタ広大ナル耕地、牧場及ビ漁場ハ始メト全部ガ和人ノ所有ニ帰シ、或ヒハ占有スセラルルニ至ッタコトハ是等ノ事実ヲ雄弁ニ証明シテ余リアルモノト云フベキデアリマス。

三、尙ホ国家ハ明治十年十二月十三日第十五号達北海道地券発行条例ヲ發布シ、我等ノ父祖ガ多年占有シ来ッタ土地一切ヲ官有地第三種ニ編入シ、其既得権ヲ保管スルニ至ッタノデアリマス。

モト元ヨリ此ノ立法精神ハ我等ノ父祖ガ和人ニ其所有地ヲ掠奪サル、ヲ防止スル親心デアッタト推察サレマス。

【6枚目】

即チ同条例第十六条ニ『旧蝦夷人居住地所ハ、其種類ヲ問ハズ当分総テ官有地ニ編入スベシ、但シ地方ノ景況ト蝦夷人ノ情態ニ依リ成規ノ処分ヲナスコトアルベシ』トアルヲ見テモ明カデアリマス。

然ルニ、超テ明治二十二年法律第三号ヲ以ッテ同地券発行条例ハ廃止セラル、ヤ、当局ハ曩キノ立法精神ヲ無視シ之ガ処分ニ関シ、我等生活上ノ脅威ヲ毫モ考慮セズニ又々和人ノ乗ズルニ任セ、利権争奪ノ資ニ供シトコロトナリタルハ誠ニ慨恨ニ堪ヘヌ次第デアリマス。

四、斯クシテ次デ国家ハ屢次ニ亘ル我等アイヌ民族ノ保護政策ノ失敗ヲ考慮シノ確立ヲ企図シ遂ニ◎〔追記ノ記号〕、明治三十二年法律第二十七号北海道旧土人保護法ヲ制定シタガ、其第一条ニ『旧土人ニシテ農業ニ従事スルモノ、又ハ従事セントスルモノニハ、一戸ニ付キ

【7枚目】〔この便箋のみ鉛筆書き〕

一万五千坪（面積五町歩）以内ニ限り無償下附スルコトヲ得』トアリマスガ、是レニ関係ノ土地処分法ニハ

無償下附スル土地ハ未開地ニ限ルト規定ガアル為メ、従来永住シ占有中ノ既墾地ハ折角ノ保護法ニヨル恩典ニ浴スル能ハズト云フ矛盾ガ生ジタノデアリマス。

而シテ實際ニ下附サレタ土地ハ山岳、丘陵ナドノ劣悪地ガ多く、面積モ形式的ナモノニ過ギズ即チ昭和十年北海道庁調査（其後数字ニ変更ナシ）ニヨルト、同族ノ最モ多キ日高支庁管内ニ於テ、同保護法ニヨリ、給与サレタ土地ヲ参考ニ供シマスト、戸数三千壹千五百十六戸ニ対シ、総面積壹千八百三十八町四反四畝十九歩ニシテ、一戸当り平均一町二反一畝弱トナッテ居リマスカラ、少イモノハ一戸当り三反歩カ五反歩ヨリ給与ヲ受ケテ居ラス者ガ沢山アル訳デス。此内山岳、丘陵等全々〔ママ〕不可耕地ノ給与ヲ受ケ開墾不能ノママニアル面積百〇八町五反七畝二十歩トナッテ居リマス。

【8枚目】

当リ四反乃至五反歩ヨリナイコトニナリマス。

本道ノ農家ハ沃土デアッテモ、面積五町歩以下デハ経営経済ガ成立セス実態デアリマス。従ッテ以上ノ小面積ノ旧土人給与地デハ、到底専農ヲ以ッテ生存シ得ラレヌコトハ自ラ明デアリマス。依ッテ多数ノ同族ハ有力農家ノ日雇カ、或ヒハ漁場デ稼働スルカニヨッテ露命ヲ繋グノ外ナク、好ムト好マザルトニ不拘、転々ト居住ヲ移スニ至リ、随テ下層ノ生活ニ追ヒ込マルル事ニナッタ次第デアリマス。

現在同族ノ中ニモ、相当面積ヲ有シ、専農経営ノ出来ル者ハ、和人ニ伍シテ其水準以上ノ生活ヲ営ンデ居ル事実ヲ見マシテモ、専農トシテノ必要量ノ土地ヲ与ヘ、其指導ヨロシキヲ得ルニ於テハ毫モ和人ニ劣ルコトナク、必然皇国民トシテノ体面ヲ保全シ得ラル、民族ナル

【9枚目】

コトヲ証明出来得ルモノデアリマス。

即チ法ノ直接運営ニ当ル当時ノ官吏ガ、アイヌ民族ニ対シ真ノ指導精神モニ欠ケ理解アル同情モヲ有シナカッタ証左ガ今日、スル社会ノ欠陥トシテ残留スルコトヲ篤ト実状御明察ヲ願ヒデマス。

五、就中、最モ重大ナル社会問題タルハ次ニ、日高国浦河町ト新冠村ニ居住スル同族ニ加ヘラレタルノ享ケタル土地ノ処置デアリマスニ言及セントス。

即チ往年、農林省ガ浦河町字西舎ニ、日高種馬牧場ヲ創設スルヤ、同地内ニ居住スル同族ガ、其占有地ニシ

テ、未ダ所有権獲得ノ手續キヲセザリシモノハ、是レヲ高圧的命令デ、無償没収シ。旧主人セラレタノデアリマス。又旧土人給与地トシテ既デニ所有権獲得ノ手續キヲ了シタルモノハ、旧土人保護法ニヨリ売買ヲ禁ジラレテアル為メ、如

【10枚目】

何ニ農林省トハ云ヘ是ヲ強制的ニ買上サゲル道ナク、併呑ノ手段トシテハ替地ト称シヲ与ヘラレタルモ、農耕全々〔ママ〕不可能ナル同町東幌別ノ山岳地ニ移サセルノ止ムナキニ至リ、斯クシテシ云ハバアイヌ同族ノ生存権ヲ奪ツタモノデアリマストモ称スベキデアリマス。

一方、新冠村デハ、新冠御料牧場ノ創設ニ際シ、是レ又、アイヌ同族ガ父祖以来占有シ安住シ来ツタ、広大肥沃ナ農耕地ハ勿論、放牧地モ如何ナル理由モ嘆願ヲモ取上ゲズ、一方的強権ヲ以ッテ御料地ニ編入シ、百数十戸ノアイヌ同族ハ農耕ニヨリ生活不能デアアル遠隔ノ地、沙流郡上貫気別ノ深山、高岳地帯ニ転住ヲ強ヒラレタ次第デアリマス。

然レ共、斯ノ事実ハ皇室ニ関係アルダケニ皇国ノ臣民デアアル我々同族ハ先祖代々墳墓ノ地ト定メテ永住シテ

【11枚目】

来マシタ。総テノモノヲ提供シタノデアリマス。

道内デモ、浦河ト新冠ノ同族ガ有シテ居ツタ土地ハ極メテ肥沃ナ土地デアッタダケニ、之等犠牲ニ供セラレタ同族ノ一同〔ママ〕ノ打撃ハ、将ニ致命的ナモノデアリ、今日之等関係ノ同族ガ住ムニ土地ナク漂流同様ナ生活ヲ続ケテ居ルノハ、其ノ結果デアリナモノガアルト云フベキデアリ、為メニ子弟ノ教育モ思フニ委セズ、知育ノ進マヌヲ以ッテ、心ナキ和人ハ事毎ニ侮蔑シ、劣等視シ、自己ハ大和民族トシテ世界ニ冠タル優秀民族ナルガ如キ、誤ツタル優越感念〔觀念〕ニ捉ハレアイヌ民族ニ加ヘタル圧迫暴挙ハ枚挙ニ遑ナイ程デアリ、社会門〔ママ〕題トシテ、人道問題トシテ、由々敷キ問題デアリマス。

六、現在アイヌ民族中、農業経営体験ト労力トラ

【12枚目】

有スルモ、土地ト資力ナキタメ各地ニ漂流ノ日雇ヲ以ッテ生活シ居ルモノ多数アリ、又近ク同族専農家ノ子弟デ分家ノ上、自力自営ノ必要ニ迫ラレツ、アルモノモ多数アリ、之等合算スルト□概算□□約二千戸ト

ナリマス。

而シテ之等ヲ専農トシテノ必要地積一戸ニ付キ五町歩ヲ与ヘルト計画スルニ於テハ、茲ニ農耕地壹万町歩ヲ必要トシ、又将来是レニ附随シ混畜農業ヲ必要ト致シマスノデ、一戸当リ十五町歩ノ放牧地ガ必要トスルハ常識ニシテ、是レ又三万町歩ヲ要スル次第デアリマス。即チ我等アイヌ民族ガ農業ノ部門ニ於テ、其生活水準ヲ和人ト併行スルマデ向上セシムルニハ、先ヅ以ッテ農耕適地壹万町歩ト、放牧地叁万町歩トヲ最少必要量トスルモノデアリマス。

【13枚目】

仄聞スル処、今回日高種馬牧場並ニ新冠御料牧場ハ廃止セラレ、全面的解放サレルヤニ承リマシタ。時恰モ狹隘ナル国土ニヨッテ、食糧増産ノ必要ニ迫ラレツ、アル時、大局の見地ヨリシテ、誠ニ機宜ヲ得タルモノト思考セラレマス。果タシテ事実トセバ、先ヅ新設當時、犠牲ニ供セラレタルアイヌ民族ノ沿革、現在ノ生活状況等ヲ御考慮相仰ギ、是レガ厚生ノ対象ニ全地域ノ内ヨリ農耕適地壹万町歩ト放牧地三万町歩、計四万町歩ヲ、我ガ等社団法人北海道アイヌ協会ヘ同族ニ御下附相仰ギ度ク出御願ニ及ビタル次第デアリマス。幸ニシテ御聴許ヲ得ルニ於テハ、我ガ協会ハ其配分ヲ適正ニシ、国ノ施策ニ協力シテ農業経営方針ト其指導ニ万全ヲ期シ、アイヌ民族ヲ以ッテ最モ理想的ナ郷土ヲ作り、食糧生産ヲ以ッテ、国家社会ニ貢献スルト共ニ、北海道ノ先住民族トシテ、

【14枚目】

今猶ホ悲惨ナ生活状況ニアル同族ヲ、蔑視、差別的冷遇、社会的圧迫等ヨリ起ル幾多悲劇ヨリ救済シ、和人ト併行スルマデ、其水準ノ向上発展ニ全力ヲ注ギ、真ニ皇国民タルノ体面ヲ保全シ得度キ所存デアリマス。△其水準、和人ト併行スルニ於テハ、蔑視モ、差別的冷遇モ、社会的圧迫モ、自ら解消スルコトハ、自明ノ理ニシテ△斯ル明朗ナル、理想郷ノ実現ハ我等一万七千同族ガ等シク夢ニダニ忘レ得ラレヌ、唯一ノ希望デアリマス。

以上情状御明察ノ上、而御庁ノ御理解アル御同情ニヨリ御聴許相仰ギ度、此段及嘆願候也御願ニ及ビタル次第デアリマス。

追申、本願書、頭書ニ陳述ノ如ク本協会ハ別紙添附ノ寄附行為定款ノ如ク、智育程度モ、特殊ノ事情ニアル同族ニハ、教育方針ニモ改善ヲ加ヘ特殊教育ノ必

要ヲ痛感致シテ居リマス。

【15枚目】

又、荒廃セル住宅ノ改善、漁業ノ助成、療養施設等、
其他急ヲ要スル懸案山積セルモ事案ニ関シ、何レモ遠
大ナル計画ヲ要スルモノニシテ、日下本会ニテ立案中
ニ付キ、具体的成案完備ノ上ハ、同族向上諸般施策ニ
御援助ヲ仰グ度ク追而請願仕ル可ク候也所以存デアリ
マス。以上、

昭和二十一年 月 日〔月日空白〕

北海道庁厚生課内

社団法人北海道アイヌ協会

理事長 向井山雄

殿〔宛名空白〕

資料紹介3) Petition for Promotion & Relief of Ainu
race/Hokkaido Ainu Association(Foundational
Juridical person)

【1枚目】

Petition for Promotion & Relief of Ainu race

Hokkaido Ainu Association

(Foundational Juridical person)

【2枚目】

A Petition for protection & regeneration of AINU
Race

We, the pre-occupying race of Hokkaido, had
been working hard in opening the land, by own
power & management and same contribution in the
advancement of the Imperial destiny.

However, our Ainu ancestors had very much
suffered by the 300 years' un-co-operative bulwark
of the Throne.

The good farms and fishing bases had been
usurped by them, which our ancestors continually
owed for very long period.

Owing to this, majority of Ainu had to become
like those bedouins, always having lived in most
primitive way until the fall of Shōgunate.

Down from the Meiji area, large quantity of

Japanese begun to flow in. And so our primitive
ancestors, not being cultured & educated, they had
to guard themselves against the cunning, Japanese
& could not help being thrown into the most
miserable way of life. It is indeed and fact.

We, not only expect the Government to help
us, but we ourselves have begun to awake to do
our best to solve the impending problem, having
collected all strength of the Ainu race.

The result, happy to say, is to have organised an
association for improvement & regeneration of the
Ainu race.

Its purpose is to develop up to the standard of
Japanese in agriculture, fishery & other business.
The country has accepted "Potsdam Declaration"
& she has started a democratic policy at once. May
we beg the Government to help us, who have been
suffering by 400 years' oppression and usurpation,
being out off every easy means of livelihood?

Kindly think over the fact of the following present
circumstances.

【3枚目】

Item

1. There are Ainu 3500 families & population is
some 17,000.

A few Ainu got collage-education, some
dozen, high school & all the rest have just
finished that of primary school. There are
ignorant.

These 3,500 family live in small hay huts,
thatched, & some 2,165 family out of the
above have smaller ones, no floor, spreading
straw mats right on the ground. 558 family
sleep in straw mats.

Sconomically [sic socioeconomically] there
are several rich-men, possessing some 20 or
30 hundred thousand yen.

Some 20%. of Ainu live on the Japanese
standard of living & they are farmers &
fishing people.. majority live in far below the
standard of Jap. The real fact is clear by the
numerals of the above mentioned housing.

2. The Shōgunate of 300 years ever has

ruined our ancestors, without any cultural privillages, they were really inferior, but there were many Ainu who were in fact clever than many Jap. planters.

Still ordinary ill-bred Ainu under the same control of economy have get to have the new planters occupied the land for cultivation.

They failed to hold the right of ownership of land because of their ignorance. And gradually almost of all cultivated fields, meadows & fishing bases have been occupied by the owning Japanese.

3. Moreover, the Government issued a regulation (No. 15, Title-deed regulation of Hokkaido Pref. Office) on 13th of Dec. 1847) & has put all pieces of our ancestors' owned land in the 3rd sort of the Government land to in order to take charge of it.

Of cause this action was done from Mothers' heart to protect the ancestor's ownship from the subtle planters.

Article 16 says "All the former inhabited land, including every sort of land shall be put in the Government land for the time being."

However, any land shall be managed by the official management according by the circumstances & situation of Ainu."

On the other hand No. 3, the law-1899 annuled the above mentioned title-deed

The Authority begun to disregard the spirit of the regulation & has given opportunity to the planters to do what they liked to occupy any land they desired to posses.

4. Owing to the failures on the side of the Government of ten, they composed a new regulation, No. 27, the Law of Protection of Ainu 1899.

【4 枚目】

Would you please understand the reason that the direct officials have had no instructing spirit & sympathy towards Ainu?

5. Here is most serious social problem which is connected with those Ainu at Niikappun or

Urakawa.

When the ministry of agriculture planed to open up in Nishiya, Urakawa Town, they canfiscated all plots of land of which the application for ownership had not sent in insipte that already possessed them, without any reparations.

As those who have got the right of ownership were prohibited to sell their lands, so the ministry forced to trade their's for the plots of land which were impossible to cultivate.

In this way they had to move to this rocky hill, losing the right of existence.

Again, when the Imperial stock-farm started all the dwellers in the ancestors' fertil plots of land were compelled to move to the far rocky upland. They had not listened to any petition & reasons. Their plots of land were put into the Imperial estate.

Yes, they had to move to Kaminukibetsu, Saru County, they willingly had offered all these plots the fore tathers' grave yard, knowing these would have been put into the Imperial estates.

As these lands in Urakawa & Niikappu were fertile, so their sacrifice was great.

The result of it was the fatal blow to the Ainu. The sufferers were in the exiled condition. The ordinary Japanese thinking themselves superior looked down those miserable Ainu as ignolant & uneducated.

They do often violence or misdeeds upon the Ainu.

6. There are at present many day-laboureres, though they have farming experience and will to till because they have not suitable field & financial resources.

There are also some 2000 family which members have to live out by themselves.

The 1st article "The former inhabitants, when they do farming or like to do, shall posses only a piece of land, 1,5000 tsubo (about 12a) without any payment."

However, the sort of land which they wanted

to manage to the applicants without payment by the regulation was, limited to uncultivated land, there we had to see a contradiction against the already cultivated land which we possessed for years, so we did not enjoy any privillage at all.

Accordingly these pieces of land for the Ainu applicants were hillside or high land very lean, there areas were simply on the map. The report of investigation in 1935 (no change in the numerals since) by the Hokkaido Pref. Office is as follows. By the protection law an area of 1838, 2, 4, 19, (4506a) for 1516 family was selected.

【5 枚目】

A family's portion was 1chō, 2 tan & 1 se (3a) on average.

But some has had only 3/4a a family or 5 tan. (1 1/4a)

Until this day there are some 266 acres which are entirely impossible to till though they are their allotted space.

It is situation in Hokkaido that our livelihood does not run well with less than 12 acres. According by the Ainu farmers who own so small land cannot live on as full farmers. Many of Ainu have be come “daymen” to the rich farmers or labourers at the fishing bases. They live in the lowest condition. Many around constantly. It does n't matter whether they please not!

Of cause there are a few rich Ainu full-farmers & their standard of living is better than some Japanese. This fact shows you clearly the ability of Ainu it they can have the necessary plot of land with good instruction & shall soon have the dignity of good civilians.

Many younger ones must be branch-family.

If they want to become full-time farmers, they have to get 5 chobu(12a) per family.

There must be some 1,0000 chobu (about 8a)

If they want to be “cultivator & raiser of

domestic annuals, there must be another 5 chobu (12a) for pasturing. This necessary land is so wide as 3,0000 (24a)

It is necessary to supply 4,0000 chobu (32a), that is 1,0000 chobu (8a) for farming field & 3,0000 (24a) for pasturing if you expect to elegate that Ainu up to the standard of the ordinary Japanese.

We have heard that those Hidaka & Niikappu stock-farms are going to be given up & be given over as it is the time when every kind of food is very short.

If it is true, very kindly think over the Ainu people who have suffered for many, many years with inexpressible sacrifice in connection with land-problem.

May we beg you to allot us 4,0000 chobu (1,0000 chobu of suitable fertile land for farm & 3,0000 for prasturing?

When this petition is granted, our Association honestly promises to instruct the Ainu race to build up the ideal district, by food production for contribution to the nation & society. And also we shall try to do our best to uplift them to the standard of the Japanese in salvation of most miserable Ainu race & be good members of the Empire.

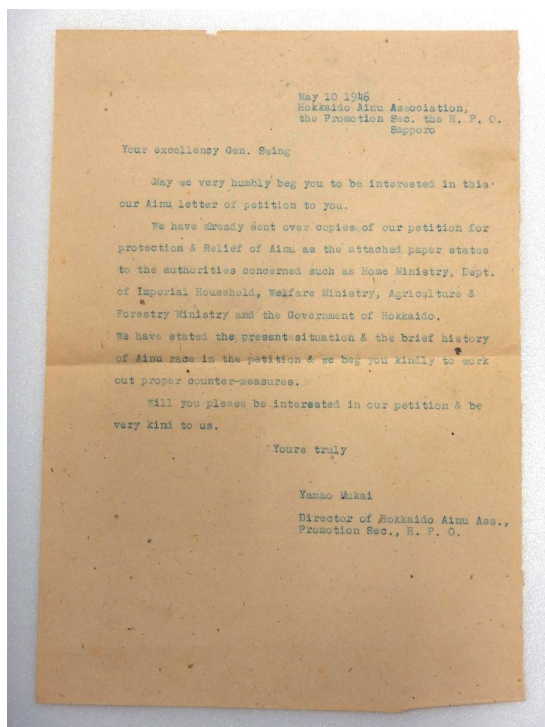
We all Ainu have had such a vision for long time to be realized Very kindly help us by hearing our petition.

【6 枚目】

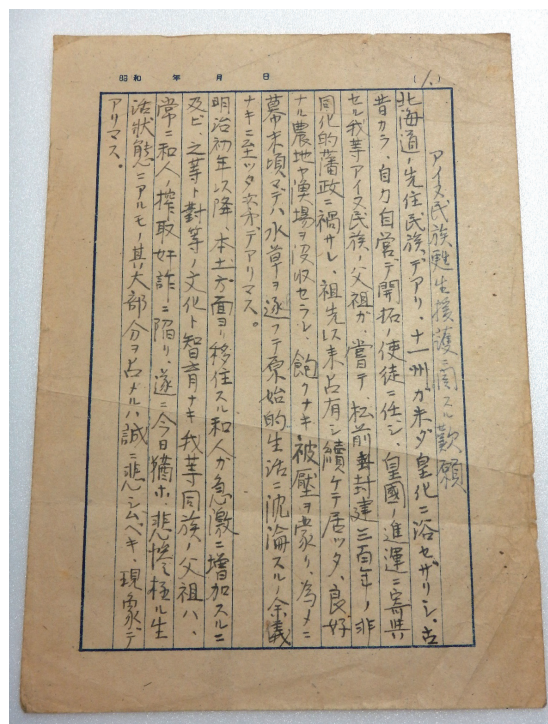
We are planning to educate, re-build the desolate huts, help the fishery & set up medical enters. Also can we ask you kindly help us when the plans are really done?

Month day 1946
President of the directors
Y. Mukai
Hokkaido Ainu Association
The public welfare section,
Hokkaido Pref., Office

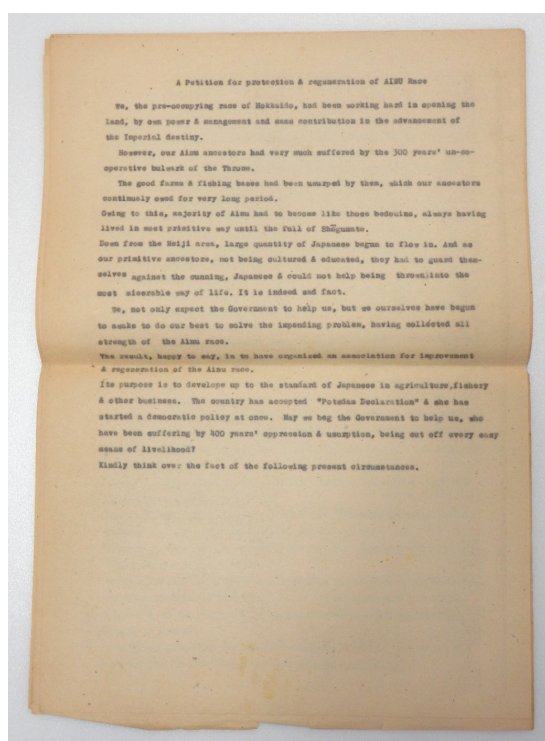
1) GHQ スウィング少将宛て向井山雄理事長
1946 年 5 月 10 日付書簡



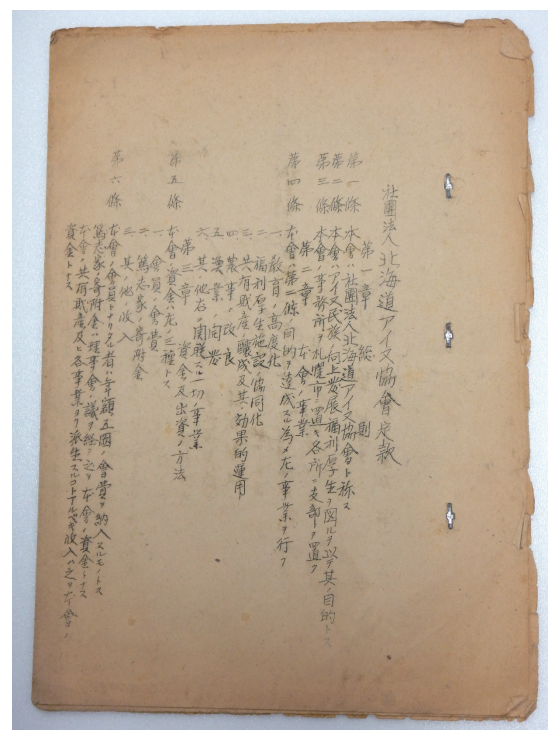
2) 「アイヌ民族甦生援護ニ関スル嘆願」



3) Petition for Promotion & Relief of Ainu race /
Hokkaido Ainu Association(Foundational Juridical person)



4) 「社団法人 北海道アイヌ協会定款」〔全 33 か条〕



5) 「The Articles of the Ainu Association
(Corporate Judicial person)」

